

特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク (FUNN) 2011年度事業報告

2011年度全体の振り返り

2011年度は、中期計画の中でも特に優先すべき事項として、「国際協力に関する市民・行政・企業との連携・協働」「財政基盤の強化」という2つを掲げて活動に取り組んだ。

「国際協力に関する市民・行政・企業との連携・協働」においては中期計画に沿った内容で、2011年度には新たに3つの事業を実施することができた。1つ目としては、外務省主催 NGO 研究会「大学と NGO の連携」に FUNN から2名の理事を派遣して調査研究に関わり、2012年2月には同研究会の福岡シンポジウムの受け入れ事務局としてシンポジウムを開催することができた。シンポジウムには58名の参加があり、大学関係者にも数多く参加いただくことができた。2つ目は、事務局長が外部講師として国立大学法人佐賀大学の授業を担当したことが挙げられる。この授業に関しては2012年度以降も継続して担当していくことが決定している。

3つ目は、九州国際大学の前期授業「企画マネジメント論」での協力が挙げられる。これは途上国を訪問することで現地の現状を学び、国際社会・国際協力について考える海外実習を学生自らが考える授業で、企画立案のサポートとして事務局長を講師として派遣、また実際に学生が企画したカンボジアとタイを訪れるスタディツアーの引率者として協力を行った。

さらにこれらの新しい事業に加えて、福岡地区の NGO と企業との連携を進めるため、(特活)国際協力 NGO センター (JANIC) が事務局をつとめる「CSR 推進 NGO ネットワーク」に2011年度から参加し、NGO と企業の連携について模索している。

「財政基盤の強化」においては、財源の多様化と経営の安定化を目指すための調査や検討を行った。会員獲得については正会員加盟の呼びかけの実施、個人会員獲得の広報活動を実施し、収益事業については、数多くの話し合いの結果、収益事業ではなく、収入増に繋がる活動を数多く実施することで、積み上げ方式による収入増を推進していくことが現在の FUNN の現状においてはより重要であるという結論に達し、2011年度は収入増に繋がるいくつかの活動を具体的に示すことができた。

2011年度は東日本大震災の発生に伴い、FUNN でも「できることは何か」について数多くの議論を重ねてきた。その議論をもとに、情報収集と他組織との共有を目的とした意見交換会の実施、被災地でのボランティア活動における注意点や心構え等を学ぶ事前研修会の共催、現地で活動する NGO の後方支援策の検討、国際協力活動と災害支援について考える講座の開催など、福岡で活動するネットワーク NGO の特性、特徴をもとにした活動を展開した。2011年11月には代表と職員が東北3県を回る視察を行い、現地の状況把握や FUNN ができることについて検討を行うことができた。

事業報告目次

- 1 2011年度各事業別報告
 - 1-1 NGO への支援・協力・サポート
 - 1-2 国際協力に関する調査・研究、政策提言活動
 - 1-3 国際協力に関する市民・行政・企業との連携・協働
 - 1-4 広報活動の支援・実施
 - 1-5 震災支援事業
- 2 財政基盤の強化
 - 2-1 財政基盤を強化し、事業活動の継続・発展
- 3 組織・運営の強化
 - 3-1 人材の確保・育成、組織運営の基盤強化
- 4 組織
 - 4-1 組織運営・体制
 - 4-2 会員

1. 2011年度各事業別報告

1-1. NGO（主に加盟団体）への支援・協力・サポート

担当：事務局 担当理事：原田君子（事務局長）

1-1-1. 2011年度の方針

情報提供と組織・能力強化支援を中心に、日々の活動において必要となる情報や知識等を提供し、団体活動の活性化を目指す。

1-1-2. 2011年度の活動

① 助成金、NGO活動に資する情報の提供

メール、ファックス、機関紙、ホームページ等を通じた各種情報提供により、団体活動の活性化を促進する。

■ 情報提供や人材紹介

・実施内容

NGO関連情報や助成金情報提供、人材・ボランティア紹介などを行った。また、FUNN独自にも情報収集を行ない、メール等による配信・案内を行った。

・評価／課題

情報提供や人材・ボランティア紹介は行ってきたが、FUNN独自による情報収集や提供、人材・ボランティア派遣は十分にできていないのが現状であり、今後の課題である。

■ 助成金に関する支援策

・実施内容

2011年度は主に財政委員会と事務局を中心として助成金情報の収集を行った。

・評価／課題

加盟団体が活用できる助成金情報を収集・集約することはできたが、情報提供までには至らなかった。2011年度に作成した情報を加盟団体の役立つ形で提供していくことが今後の課題である。

② 加盟団体NGOの組織・能力強化の支援

NGO活動における能力の向上とともに、個別団体の細かなニーズに応え得る支援策を最適な方法で実施することで、地方のNGOの性質や実態に適した組織・能力強化支援を行う。

■ 能力向上支援

地域のNGOが抱える課題を解決するために「ファンドレイジング（＝資金開拓）」をテーマに、NGOの経営の自立を目指すことを目的とした2日間の研修をNPOアカツキと共に企画・開催した。場所は西新パレスホール。JICA地球ひろば「地域NGO提案型研修」の助成を受けて実施。

日時	講師	内容	参加者数
3月17日（土） 13:00～17:00	鈴木歩さん（NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 コミュニケーション・ディレクター）	①ファンドレイジングの基礎、概念、実践に関する講話 ②振り返りのためのワールドカフェ	14名
3月18日（日） 13:00～16:30	（財）カンボジア地雷撤去キャンペーン、（特活）エスペランサ、NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク	①福岡のNGOによる活動発表 ②寄付体験ワークショップ ③アクションプランの作成	9名

・ 評価／課題

福岡地区で国際協力NGOを対象とした類似のセミナーが開催されることは少ないため、ファンドレイジングをテーマに研修を開催することができたことはひとつの成果だと言える。またアンケートには、「参加するまでは難しそうと考えていたが、よく分かった」「考えるポイントや支援者へのアプローチ方法が分かった」等の意見があり、「ファンドレイジングに対する意識や知見を高める」という研修の狙いは概ね達成されたと言える。

一方で、2日間計7時間30分の限られた時間で、概論やスキル、実際のプラン作成までを盛り込んだ内容であったため、ファンドレイジングの全体像をなぞる構成となってしまう、まとまりに欠けた内容となってしまうことが課題の一つとして挙げられる。また、NPOアカツキとの企画段階や当日の運営等の分担が十分に話し合われておらず、役割分担が不明瞭であった。今後他団体と共に企画実施する際には、注意すべき点として今回の反省を活かしていきたいと考えている。



【1日目 鈴木歩さんの講演】



【2日目 輪になりそれぞれの意見を共有】

1-2. 国際協力に関する調査・研究、政策提言活動

担当：ワーキンググループ 担当理事：楠原圭子

1-2-1. 2011年度の方針

NGOのネットワークとして、NGOや市民全体にかかわることに関して、ワーキンググループのもとで調査・提言活動に取り組む。

1-2-2. 2011年度の活動

① 国際問題の調査・研究および国際機関・政府等への政策提言活動

他のネットワークNGOが行っている政策提言活動の調査等を実施し、FUNNとしての政策提言活動のあり方や政策提言委員会の活動について検討する。

・実施内容

FUNNとしての政策提言活動のあり方や委員会の活動について検討を行ったが、2011年度は具体的な活動には至らなかった。

1-3. 国際協力に関する市民・行政・企業との連携・協働

担当：連携・協働委員会 担当理事：藤井大輔

1-3-1. 2011年度の方針

連携・協働委員会を設置し、各種学習機会の提供と各機関や組織との連携・協働を実施していくことを目指す。

1-3-2. 2011年度の活動

① 地域社会への国際協力に関する学習機会の提供

NGOや国際協力に関心を持つ人々に向けた啓発事業を実施する。新たな関心層を開拓し、

NGO活動への参画や支援に繋げることを目指す。

■ NGO入門講座「国際協力のはじめ方」

・実施内容

途上国で起こる様々な課題を取り上げ、それらの解決を目指すNGOについて学ぶ講座として、4月から10月まで毎月1回、福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」打ち合わせコーナーで実施した。参加者は計23人。

・評価／課題

「NGOについて学びたい」という参加者が多い中で、NGOの具体的な活動や役割などを学ぶことができたという評価が多くみられた。講座全体の満足度も高く、NGOに対する理解が深まったという参加者がほとんどであった。また、参加した人の中にはその他のFUNNのイベントに参加する方もおり、国際協力に関わるきっかけ作りとしての成果も見られた。

一方で、参加後の積極的な情報提供やフォローアップが果たせず、その後の関係構築が十分にできなかった。



【NGO入門講座の様子】



【NGO入門講座の様子】

■ NGOカレッジ「幸せの国際協力～私が変われば世界が変わる～」

・実施内容

NGOや国際協力に関心のある人、これから関わりたいと考えている人を対象に、グローバルイシューや国際協力活動の理解促進、国際協力活動への参加・参画の促進を目的に、3回の連続講座として実施した。参加者は計64名。(財)福岡県国際交流センター「国際化推進活動助成金」の助成を受けて実施。

日時	講師	場所	参加者数
11月19日(土) 14:00~17:00	永谷裕香さん((特活)MUKWANO代表)	アーバンオフィス天神	24名
11月23日(水) 14:00~17:00	学生国際NGO BOAT 矢野孝明さん((特活)バングラデシュと手をつなぐ会 事務局長) 和田充広さん(外務省国際協力局 参事官)	九州大学西新プラザ大会議室A	26名
12月10日(土) 14:00~17:00	上村雄彦さん(横浜市立大学 大学院国際総合科学群准教授)	Bivi福岡6階1号会議室	14名

・評価／課題

これまでのNGOカレッジの歴史の中でほとんど見られなかった高校生や、国際協力関係のイベントは初めてという方の参加を得ることができ、国際協力に関心を持つ幅広い層の参加という狙いを達成することができた。

課題としては、単発での参加者が目立ち、連続講座としての狙いが十分に達成できなかったことが挙げられる。また、第3回目は直前まで日程が確定せず広報の期間が不十分だったことなど、調整作業に課題が見られた。



【第1回目の様子】



【第2回目の様子】



【第3回目の様子】

■ お試しNGO2011「ボラタン」

・実施内容

NGOに関心のある人、何から始めて良いか分からない人、実際にNGOで活動してみたい人を対象に、参加のきっかけを提供し、国際協力活動やNGOへの理解を深めるため、加盟団体の活動に参加することができる約5ヶ月間のプログラムを実施した。受け入れ協力団体はACE福岡グループ、一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン、くるんて〜ぷの会、NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク、(特活)地球市民の会、(特活)バングラデシュと手をつなぐ会の6団体。合同説明会参加者は6名であり、このうちボラタン参加希望者は4名。ACE福岡グループと(特活)バングラデシュと手をつなぐ会にて2名ずつが活動を行った。

・評価／課題

参加者の都合により定期的な活動に取り組むことができない時期も見られたが、4人はそれぞれの団体で活動を実施することができており、NGOという組織や国際協力活動への理解が深まっていた。また、「ボラタン終了後も活動先の団体に継続して関わりたい」「他のNGOにも興味を持ったので参加してみたい」という参加者もあり、ボラタンがきっかけで次の行動へのステップとなった参加者もみられた。

一方で、NGOカレッジ参加者を対象とした昨年度に比べると参加希望者の数が少なく、集客の面で課題の残る結果となった。



【ボラタン合同説明会の様子】



【ボラタン修了式の様子】

② 行政・教育機関・地域社会との連携

各機関、組織とのこれまでの関係性を保ちながら、国際（協力）理解促進等の共通の目標達成のための効果的な連携を検討し、実施を目指す。

■ 外務省「NGO相談員」

・実施内容

年間を通して、国際協力に関する市民からの一般的な問い合わせや、活動に係る各種相談をNGO等から受け付けた。迅速かつ相談者に応じた的確な対応を心がけ、メール、電話、事務所での対応等を行った。年間相談件数は558件、「NGOやNGO活動」に関する一般的な問い合わせが最も多く寄せられた。外務省NGO活動環境整備支援事業「NGO相談員」を受託して実施。

・評価／課題

単に相談に応じるだけではなく、相談者のその後の関わり方を考えてもらうための対応を行うことができた。また、日頃から国際協力推進員や県・市のボランティアセンター等の組織と連絡を取るよう心がけ、相談対応力の向上に努めることができた。

しかし、対応ノウハウや相談員ごとの得意分野が十分に共有できず、対応可能な職員が不在の時には通常より対応に時間がかかってしまうことがあった。また、福岡市外での県内の周知活動は十分とは言えず、相談員における広報や連携の成果は低かった。

■ NGO相談員出張サービスおよび各種イベント参加

・実施内容

外務省NGO相談員の制度を活用し、市民からの相談対応と他団体や来場者との交流を目的に、九州各地で開催される各種イベントに積極的に参加した。

日時	イベント名	場所	形態／相談件数
2011年7月23日（土） 19:00～21:00	あすみん交流会	福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」セミナールーム	セミナー／2件
2011年10月11日（火） 19:00～20:30	くるくる イブニング・トーク・カフェ	西日本短期大学サテライトオフィス	セミナー／7件
2011年10月22日（土） 9:00～16:30	おおいた国際協力啓発月間in2011	iichiko総合文化センター1階アトリウムプラザ	相談対応／10件
2011年10月30日（日） 10:00～16:00	ながさき国際協力・交流フェスティバル	出島交流会館	相談対応／11件
2011年11月5日（土）、 6日（日）11:00～17:00	国際協力フェスタ「地球市民どんたく2011」	アクロス福岡2階交流ギャラリー	相談対応／20件
2011年11月20日（日） 10:00～16:00	かごしま国際交流フェスティバル	かごしま県民交流センター2階大ホール	相談対応／5件
2012年3月3日（土）、 4日（日）10:00～17:00	ふくおかボランティア祭り	福岡市立中央市民センター	相談対応／6件
2012年3月4日（日）、 20日（火）15:00～17:00	NPO・ボランティア活動相談会	福岡県NPO・ボランティアセンター 会議室	相談対応／3件
2012年3月17日（土） 10:00～17:00	北九州ソーシャルビジネスメッセ2012	西日本総合展示場 新館 3階 DEF展示場	相談対応／7件
2012年3月24日（土）、 25日（日）10:00～17:00	2012国際交流・国際協力（NGO）協働SAKURA祭	熊本市国際交流会館	相談対応／9件

・評価／課題

2011年度も、佐賀県と宮崎県を除く九州各県において開催される国際協力のイベントに参加し、悩みや疑問を抱えていてもどこに相談をすれば良いか分からないという市民やNGOからの相談に対応することができた。

しかし、現在の出張サービスは依頼されて参加する機会が多く、FUNNからの積極的な提案は比較的少ないのが現状である。相談対応のニーズや意義をFUNNが調査検討し、働きかけていくことが必要である。



【地球市民どんたく】



【ながさき国際協力・交流フェスティバル】

■ 外務省NGO研究会「大学とNGOの連携～大学との連携促進による、国際協力NGOの組織力強化とスタッフの能力向上～」

・実施内容

大学とNGOの連携について調査を行い、中小規模のNGO側の視点から検討を加え、そこから得られた知見をNGOの組織力強化とスタッフの能力向上につなげることを目的に、高橋理事、藤井理事による調査研究・報告書作成の協力を行った（同研究会の委託団体は（特活）関西NGO協議会）。また、研究成果の発表と社会還元を目的としたシンポジウムを、2月17日（金）に九州大学医学部百年講堂にて開催した。シンポジウム参加者は58名。

・評価／課題

大学とNGOの連携の実態を調査することで、両者の強み・弱みやお互いへの要望、連携における課題等が明らかになり、これからの連携における指針を考えることができた。また、大学への調査や広報等の働きかけにより新しい繋がりができ、なかには具体的な連携の可能性について検討をスタートできたケースもあった。今回生まれた関係性を途切れさせずに、今後も働きかけていく必要がある。



【全体の様子】



【韓国・聖公会大学 チョ・ヒョン氏】

■ 講師派遣・アレンジメント

・実施内容

大学や中学校等からの依頼を受け、講師の派遣や調整を行った。2011年度の実績は次の通り。九州国際大学「国際協力実践論」「夢カフェ」、佐賀大学「平和を考える」「国際協力論」、老岐中学校「総合学習」、部落解放同盟中央本部「部落解放同盟高校生集会」、福岡女学院大学「NGO・NPO論」、福岡教育大学「国際協力論」、城南中学校「学習会」、九州大学・ADB、JICA「国際協力キャリアセミナー」

・評価／課題

2011年度は講師調整を行う大学や職員が講師となる授業科目を増やすことができた。NGO研

研究会「大学とNGOの連携」によって生まれた大学との関係を活かし、今後は講師派遣を積極的に展開していきたいと考えている。



【佐賀大学「国際協力論」】



【老岐中学校「総合学習」】

■ 地域ネットワーク活動

・実施内容

福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」、福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）、福岡市人権啓発センター、福岡県国際交流センター、福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」などFUNNが加盟・登録しているネットワークの連絡会等に参加し、交流や情報交換を行った。

・評価／課題

様々な団体・組織と繋がりを持つことができたため、震災支援における双方向の情報提供や協力関係の構築などにもつながった。

■ JICAとの連携

・実施内容

JICA九州や「地域のJICA窓口」である国際協力推進員と日頃から連絡を取り、協力に向けた意見交換等を行った。また、九州の推進員が集まる推進員会議にも定期的に参加し、FUNNの活動やNGO相談員制度の紹介、協力の可能性等について話し合いを行った。

・評価／課題

日頃から連絡を取り合うことで相談対応時において双方で協力をすることが可能となり、スムーズに対応することができるようになった。また、推進員会議に定期的に参加することで、新しい推進員に対しても早い段階でFUNNについて周知することができ、出張相談や広報を中心に協力関係を構築することができた。今後もこのような協力関係を絶やすことなく、今年度以上の関係づくりに注力していきたいと考えている。

■ 地域ネットワークNGO調整会議

・実施内容

今年度は開催されなかった。

■ 「動く→動かす」(GCAP Japan)

・実施内容

「世界から貧困をなくそう」「ミレニアム開発目標を達成しよう」という声を政策提言やキャンペーンにいかしていくために設立されたNGOのネットワークにフレンズ会員として参加し、「STAND UP TAKE ACTION」の活動に協力した。FUNNが実施した「STAND UP TAKE ACTION」の参加者は32人。

・評価／課題

「STAND UP TAKE ACTION」の活動を通して関心層の獲得に繋げることができた。

■ 新年会

・実施内容

FUNN会員・役員・職員・インターン・ボランティア・関係者を対象とした新年会を1月21日（土）に実施した。参加者は6名。

・評価／課題

広報開始時期の遅れと呼びかけの不十分さにより、参加者の少ない新年会となった。今後はそれらを改善し、多くの方の参加を得ることのできるように、細やかな対応をしていきたいと考えている。

③ CSR事業及び企業との連携

福岡・九州におけるNGOと企業の連携の現状を踏まえ、CSR事業に取り組むための「土台」作りを行い、連携の形を模索する。

■ CSR推進NGOネットワーク

・実施内容

NGOと企業の相互理解を促進し、より良い効果的なCSR活動が実施されることをめざして活動している「CSR推進NGOネットワーク」（事務局：(特活)国際協力NGOセンター（JANIC））に参加した。

・評価／課題

ネットワークに参加することで、多様な情報を得ることができたが、地理的・時間的問題等から定例会やシンポジウムに十分に参加することができず、積極的な関わりを行うことができなかった。

1-4. 広報活動の支援・実施

担当：広報委員会 担当理事：弥栄睦子

1-4-1. 2011年度の方針

FUNNの広報活動及び加盟団体に対する広報支援をより活発にすることを目的に広報委員会を設置し、活動を行う。

1-4-2. 2011年度の活動

① FUNNの広報活動

これまでのFUNNの活動に関する全ての問題を洗い出し、更に効果的な広報活動を行うためにはどう改善すべきかを検討し、実施ができるようにする。また広報を改善することで新規加盟団体・個人会員の獲得を目指す。

■ 国際協力ニュース

・実施内容

紙面をより一般の方に読んでいただけるような形にリニューアルをし、ページ数を以前の12ページから8ページに減らすことで作業時間とコストの削減を行った。さらに大学図書館や九州県内の図書館に配架してもらえよう依頼し、配布先の拡大に努めた。

・評価／課題

これまでの12ページからページ数を削減したことにより人的及び金銭的なコスト削減をすることができたこと、今までの雑多な構成を見直すことで読みやすい紙面としたことは評価できる点である。しかし、実際にどの程度の方が読んでいるかは把握できていないため、リニューアルによってどれほどの成果が表れているか今後の調査が必要である。

■ FUNN紹介リーフレット

・実施内容

FUNN紹介のリーフレットについて、加盟団体の情報を掲載した印刷物の情報アップデートを行い、会員・関係団体への送付、公共機関への設置依頼、講座・イベントなどでの配布を行った。

・評価／課題

リーフレットは上記実施内容にある通り、各種機関への設置、イベントでの配布を滞りなく実施した。それにより、FUNNについて一般の方々にまずは知ってもらうことができた。リーフレット自体に問題はないが、挟み込みの加盟団体情報の印刷が間に合わないことがあった。残部管理等が今後の課題とされる。

■ メルマガ・ウェブサイト・メールでの発信

・実施内容

メルマガは隔週、ウェブ（FUNN およびイーココロなど）・メール・チラシなどは随時、イベントや各種情報の配信を行った。また新たに Twitter や Facebook を活用しての広報活動を行った。

・評価／課題

メルマガの配信、各種ウェブサイトでの広報、その他情報発信を今年度も滞りなく実施することができた。また今年度は新たにTwitterやFacebookなどのソーシャルメディアを活用することで、イベント参加者を増やすなどの成果を挙げることができた。しかしFUNNのウェブサイトが以前に作られた形式のまま、一部必要なところだけの更新に止まっており、情報が見つけにくくわかりづらい状態になっているため、情報の整理・必要であればリニューアルを行っていくべきと考えている。

② FUNN加盟団体の広報活動の支援

加盟団体に対して、ウェブや機関紙での広報に加え、個別に広報支援のできる方法を検討・実施していく。

■ 新たな広報手段の検討

・実施内容

加盟団体の広報に関する問題点等を聞き、改善に対するアドバイスを行う「広報診療所」を個別相談・セミナー形式の形で9月・1月・2月の計3回開催し、12名の方に参加していただき、外部団体も含む計7団体の支援を実施することができた。

・評価／課題

まずこのように主に加盟団体に対して、新たに広報活動の支援ができたことは評価できることである。今年度は初年度ということで様々な方法で実施をしたが、次年度においての内容や実施体制は、継続した実施ができるような形で検討していく必要がある。



【9月 広報診療所】



【1月 広報診療所】

■ NGO海外スタディツアー合同説明会

・実施内容

6月5日（日）14時～16時40分福岡市人権啓発センター（ココロンセンター）研修室にて実施した。プログラムとしては第1部に全体講演として、スタディツアーの目的・注意事項などの説明を行った。第2部では参加団体の簡単な活動紹介を行い、第3部で参加団体出展ブースでの個別相談対応を行った。参加者はスタッフも含め計29人・参加団体は7団体だった。

・評価／課題

説明会の内容についてはアンケートより8割の参加者に満足していただくことができた。しかし、参加者数は昨年度より減少しており、それにより加盟団体の広報活動の機会としても十分なものと言えない現状がある。次年度は参加者数を増やすための工夫をしていく必要がある。



【スタディツアーについての講義】



【個別相談対応】

1-5. 震災支援事業

1-5-1. 2011年度の活動

■ 「震災支援とNGOの活動について考える」

・実施内容

東日本大震災の発生を受け、被災地で支援活動に取り組む国際協力NGOの活動や現状を学び、福岡・九州においてNGOや市民がどのような関わりを持つことができるのかについて考える講演会を7月7日（木）に開催した。講師は（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）事務局長の山口誠史さん。会場は福岡NPO共同事務所「びおと一ぷ」、参加者は14名。

・評価／課題

開催時の福岡では、支援活動を行う国際協力NGO視点の報告の機会がほとんどみられなかったため、当時の最新の情報を聞く貴重な機会となった。また直接支援を行うNGOの立場だけではなく、情報の収集と提供、NGO間の調整、関係機関との連携・交渉等を行うJANICの活動を通して国内支援に取り組むNGOの役割や途上国支援との繋がり等を参加者と共に考えることができた。



【JANIC事務局長山口誠史さん】



【講演の様子】

■ 「災害支援と国際協力」

・実施内容

この講座は一般県民を対象に、NGOが取組む災害支援活動を通して、国際協力に興味・関心を持ってもらうことを目標として、福岡及び北九州にて実施した。同時に、アクロス福岡3階「こくさいひろば」にて関連写真展も開催した。財団法人福岡県国際交流センター委託事業として実施。

日時	講師	場所	参加者数
10月29日(土) 14:00~17:00	小川恵美子さん((特活)ソルト パヤタス理事・マニラ事務局 事務局長) 藤井大輔さん(九州国際大学 国際関係学部助教・副学部長、 (特活)NGO福岡ネットワーク 副代表)	アクロス福岡3階「こくさい ひろば」	28名
10月30日(日) 14:00~17:00	西村尚子さん(認定NPO法人 地球市民の会理事) 藤井大輔さん(九州国際大学 国際関係学部助教・副学部長、 (特活)NGO福岡ネットワーク 副代表)	北九州市立国際村交流セン ター2F会議室	18名

・評価/課題

内容に関してはアンケートより、97%の方々に満足いただくことができた。国際協力や支援活動全般についての内容が心に残ったという参加者が多く、元々国際協力に興味・関心のあった方にもなかった方にも、国際協力を知るもしくは学びを深める良い機会を作ることができたと考えられる。また、そこから当団体主催事業であるNGOカレッジに参加してくれた方もおり、参加者層の新規開拓として見ても成果があったと言える。しかし、委託事業であるがゆえ、自主事業よりも企画運営や連絡調整等に細やかな配慮が必要となり、作業時間・収益・成果等とのバランスを考えさせられる事業となった。



【1日目の様子】



【写真展の様子】

■ 被災地視察

・実施内容

被災地の状況やNGOの支援活動を把握し、FUNNとしてどのように支援活動に取り組むべきかを考えるため、11月8日(火)~11月12日(土)にかけて東北を回る視察を行った。メンバーはニノ坂保喜、本田正之。協力者は芹田博さん。

日時	場所	受け入れ先
11月9日(水) 14:00~17:00	宮城県気仙沼市	気仙沼市民会館 館長 全国訪問ボランティアナースの会「キャンナス」
11月9日(水) 18:00~	気仙沼市立面瀬中学校 仮設 住宅内集会所	日本在宅ホスピス協会
11月10日(木) 7:00~10:30	宮城県気仙沼市	国際ボランティアセンター山形 (IVY) 気仙沼 事務所 キャッシュ・フォー・ワーク現場 (復旧作業)
11月11日(金) 9:30~11:00	岩手県遠野市	国際協力NGOセンター (JANIC) 岩手連絡事 務所 遠野まごころネット
11月11日(金) 13:00~14:00	岩手県北上市	東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) 現地会議in岩手
11月11日(金) 20:10~22:00	山形県山形市	国際ボランティアセンター山形 (IVY) 事務所

・評価／課題

福岡で活動するネットワークNGOとして、代表と職員が実際に被災地に赴くことができたのはひとつの成果である。また、被災地（被災者）・現場支援者・後方支援者という支援の全体像を視察できたことで、関係性やそれぞれの立場によるポジションを把握することができた。

しかし、FUNNとしての取り組みに対する決定的な答えを見つけないことができず、今後も継続して検討を行っていくこととなった。



【南三陸町の様子】



【IVY気仙沼事務所にて】

2 財政基盤の強化

2-1. 財政基盤を強化し、事業活動の継続・発展

担当：財政委員会 担当理事：高松千博

2-1-1. 2011年度の方針

「財政基盤の強化」は、中期計画の中でも優先事項に位置付けられており、その主たる推進組織として財政委員会を設置し、FUNNの財政基盤の確立を目指して、事務局の全面的な支援、協力を得ながら中期計画に盛り込まれた次の事項を推進する。

2-1-2. 2011年度の活動

① 会員の獲得

会員管理の徹底や会員制度の整備等により、正会員・賛助会員・通信会員の増加を図る。

■ 会員獲得に向けた対外的活動の実施

- ・実施内容

正会員加盟の呼びかけのため、候補となる団体のリストアップを行った。

- ・評価／課題

正会員、賛助会員、通信会員の増加を図ったが、広報手段の検討にまでは至らなかった。今後は、他委員会との連携のもとで獲得活動に取り組んでいく必要がある。

- 会員制度の整備

- ・実施内容

まずは受け皿となる制度が必要という考えのもと、年会費30,000円の法人（企業）会員制度の検討を行った。また、会費金額の検討も行ったが、会費値上げを前向きに捉えてくれる会員は少ないと思われるため、現時点では会費の値上げは見送らざるを得ないという結論となった。

- ・評価／課題

会員制度については今後も検討・整備していく必要がある。

- ② 寄付・助成金の獲得

寄付・助成金の獲得に関する情報収集を行ない、寄付・助成金の更なる獲得を目指す。さらに認定法人化の検討により、FUNNへの寄付が行ないやすい制度作りの検討も行う。

- 寄付・助成金の獲得に向けた対外的活動の実施

- ・実施内容

2011年度も宗教法人真如苑から寄付をいただくことができた。また、当初は認定NPO法人申請に必要な寄付金額（寄付金比率20%）の獲得を目指していたが、同条件は3,000円×100人の寄付条件に変更された。さらに仮認定という制度も新設され、2011年度は制度そのものが大きく変化した年であった。これらのことを考慮して以下の通り認定法人化の検討を行うこととなった。

- 認定法人化の検討

- ・実施内容

2012年度から仮認定NPO法人制度がスタートするため、同制度を利用することを2012年2月の理事会において検討、3月の理事会で承認を行った。

- ・評価／課題

今後は仮認定NPO法人申請の準備・申請を行いつつ、FUNNの活動や役割を分かりやすくまとめるなど、FUNNへの寄付が増えるための取り組みを行う必要がある。

- ③ 収益事業活動の強化・充実

収益事業実施に向けて、事業の検討・強化・充実を図り、FUNNの安定的な経営を目指す。

- 収益事業活動の検討・実施

- ・実施内容

安定的な経営を目指して、特に収益事業活動の検討を行ったが、決定的な案を出すことはできなかった。収益事業ではなく、収入増に繋がる活動を数多く実施することで、積み上げ方式による収入増を推進していくことが重要との結論に達した。

- ・評価／課題

収入増に繋がるいくつかの活動を具体的に示すことができたため、2012年度の実施を目指し、収入増に繋げていく必要がある。

3 組織・運営の強化

3-1. 人材の確保・育成、組織運営の基盤強化

担当：事務局 担当理事：高橋良輔

3-1-1. 2011年度の方針

運営するための組織を整え、その運営や発展に資する人材確保・育成の為の施策を行うことで、望ましい組織運営を目指す。

3-1-2. 2011年度の活動

① 各委員会等組織の基盤強化

理事会や事務局、専門委員会の組織状況を把握し、そのあり方を定めたガイドラインを作成することで基盤の強化を図る。

■ ガイドラインの作成

・実施内容

専門委員会の組織状況・業務内容等を把握し、委員会の規定を作成した。

・評価／課題

新たな委員会を設けることから委員会規定の作成に取り組んだが、理事会や事務局のガイドライン作成には至らなかった。

② 人材確保・育成の為の施策

職員の人材確保・育成の施策のための活動に取り組み、FUNNを運営する人材の働く環境や能力の向上を図る。

■ 課題の調査

・実施内容

今年度は実施に至らなかった。

■ 待遇の整備、施策の実施

・実施内容

今年度は実施に至らなかった。

③ 危機管理体制の強化

危機管理体制の整備・強化を実施し、危機管理マニュアルに基づいた適切な活動を図る。

■ 課題の調査・マニュアルの作成

・実施内容

今年度は実施に至らなかった。

4.組織

4-1. 組織運営・体制

中期計画の重点施策を推進する委員会（連携・協働委員会、財政委員会、広報委員会）を設置し、事務局や理事会との連携を円滑に図りながら、運営を行った。担当理事はそれぞれ、藤井大輔、高松千博、弥栄睦子。

事務局が行う業務等を管理し、必要に応じて相談・アドバイスを行う事務局担当理事は、高橋良輔。

役員

- 【代表】 ニノ坂保喜／（特活）バングラデシュと手をつなぐ会 代表
- 【副代表】 藤井大輔／債務と貧困を考えるジュビリー九州 代表、九州国際大学国際関係学部助教
津島朋憲
- 【理事】 大谷賢二／一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン 理事長
河上雅夫／NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク 理事長
楠原圭子／アジア開発銀行福岡NGOフォーラム 事務局
倉富隆／フレンズ国際ワークキャンプ九州 代表
高橋良輔／佐賀大学文化教育学部准教授
高松千博／Save the African Children 代表
瀧本昌平／債務と貧困を考えるジュビリー九州 事務局長
原田君子／くるんて〜ぷの会 代表、（特活）NGO福岡ネットワーク事務局長
古川純平／一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン 事務局長
弥栄睦子／インドネシアの子供の教育を救う会 副会長兼事務局長
ラフマン・モクレスール／（特活）バングラデシュと手をつなぐ会 理事
- 【監事】 安部昌明／（特活）明日のカンボジアを考える会 代表

- 《事務局》 事務局長 原田君子
事務局員 本田正之、多原真美
会計 岩本直子
インターン 大里綾、中村美香、木下智子、シュウエート・ウルリケ、
倉元久美子、ダリア・ユーレク

- 通常総会：2011年5月22日（日）福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」共同大会議室
- 通常理事会：毎月1回
- 事務局会議：毎週1回

4-2. 会員

正会員（全24団体）

アジア開発銀行福岡NGOフォーラム（FNA）
（特活）アジア女性センター
（特活）明日のカンボジアを考える会
アフリカくらぶ
インドネシアの子供の教育を救う会
認定NPO法人ACE
（特活）エスペランサ
（財）カンボジア地雷撤去キャンペーン
くるんて〜ぷの会
子どもの性と命の教育コミッティ（CESA）
コミュニティ コミュニケーション・サポートセンター（Commu）
債務と貧困を考えるジュビリー九州
JVC九州ネットワーク
Save the African Children
（特活）ソルト・パヤタス
認定NPO法人地球市民の会
NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
（特活）NICE
ネパール歯科医療協力会（ADCN）
（特活）バングラデシュと手をつなぐ会
バングラディッシュピルガゾン村診療所実行委員会
PP21ふくおか自由学校
（財）福岡YMCA
フレンズ国際ワークキャンプ九州（FIWC九州）

個人会員

賛助会員（個人）	13名
賛助会員（団体）	0
通信会員	33名

以上